

特 253
811

陸軍中將橋本勝太郎述

犯罪と徳性

財団法人 日本少年指導會刊

38
16

始



目次

一、緒言 一頁

二、彼等少年の資質 二頁

三、彼等少年の赤裸の姿 三頁

四、彼等少年の環境 八頁

五、性能テスト 九頁

六、教化研究部發表の病的な人格者 一一頁

七、家系の病的負因とテストの遣り方 一二頁

八、斯道研究家に望む 一三頁

哀 愴 一四頁

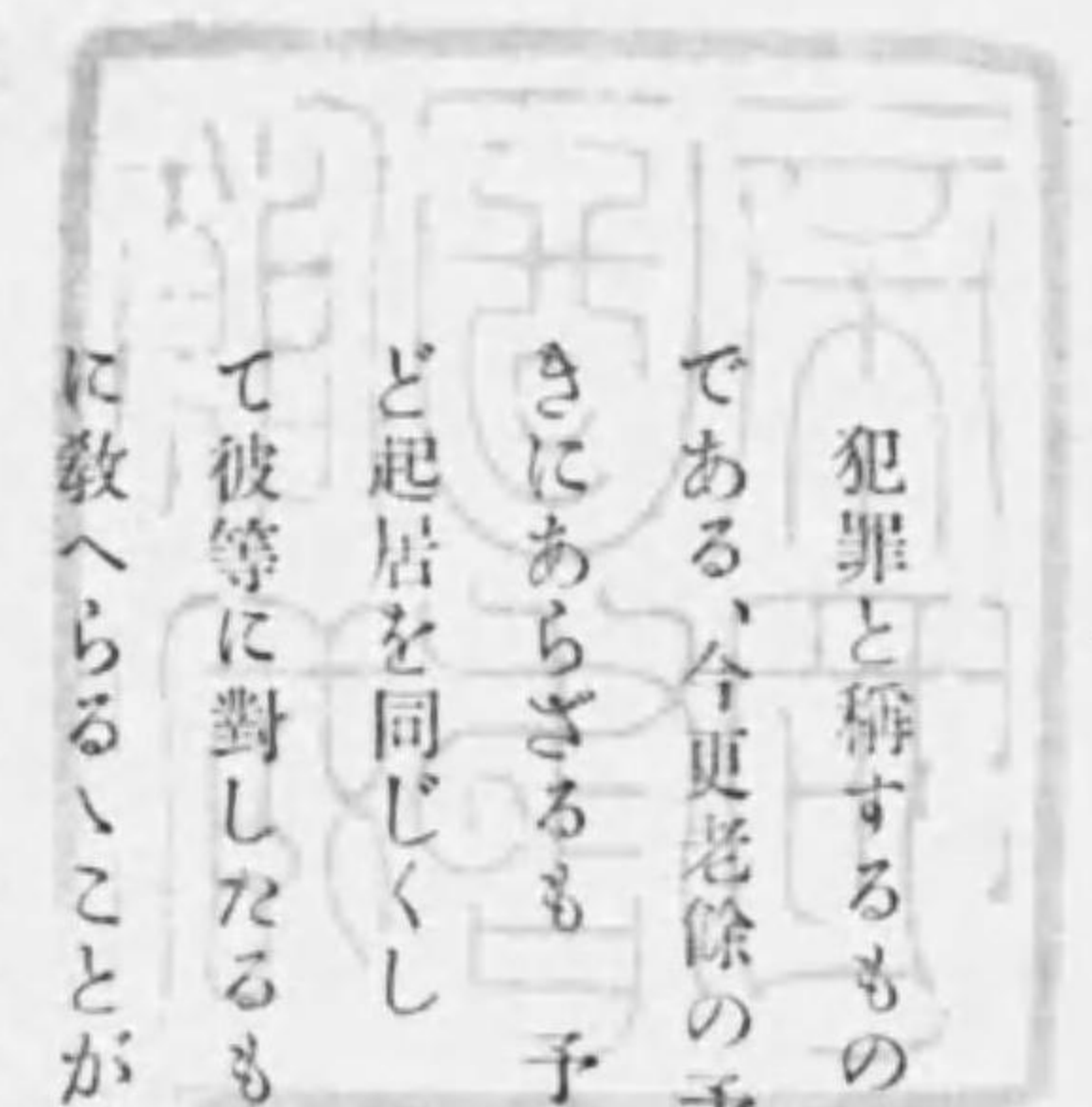
附、幼少年教化研究部趣意書 一五頁

特253
811

犯罪と徳性

陸軍中將 橋本勝太郎

一 緒言



犯罪と稱するものは、社會の安寧秩序を維持せんが爲めの刑罰法令に違反する行爲である、今更老餘の子が犯罪と徳性問題を提げて 識者に相見ゆるは聊か僭越の誇りなきにあらざるも 予は多年犯罪少年及犯罪の虞ある少年を收容保護し彼等と朝夕殆んど起居を同じくし 及ばずながら彼等を正道に復歸せしめん爲に熱烈以て條理を盡して彼等に對したるも 如何にせん予の不徳短才は屢々我が期待を裏切られ却つて彼等に教へらるゝことが尠くない 隨て彼等に對し從來我も人と共に執りつゝある 指導

精神(則るべき特種教育法は未だない)では効果の見るべきもの少きを體得した。其結果現代科學の力を籍るに如かずと 精神科醫學者、心理學者、教育學者並に實際

家を聘し 我收容少年を對象として其不良化原因を調査せしめた。其得たる結果を死藏埋没するに忍びず、敢て大方の識者に向つて 爆彈的戒告を試みんとす。

二 彼等少年の資質

收容保護少年の犯罪事件を類別すれば實に種々多端に亘るも それを煎じ詰めて見れば 彼等殆んど全部が一樣に盜癖の持主である、稀れには性慾關係等もあるが、要するに彼等は人間本能を至當に抑制する能はずして 犯罪に到れるものであつて、道徳感の破綻と云ふを得べし 換言すれば自己中心なる我儘の發露と云ひたい 某醫學者は自己中心症と云ふ症の字こそ當れるものゝ様である 論より證據彼等少年は揃ひも揃つてヒチ面倒なことが嫌ひで 勞苦を厭ひ(怠惰性) 絶へず本能の満足と享樂に墮し易い資質を持つ、此の資質こそ一般生物の通有性なるも 彼等少年は特に自己抑制力の缺陷だと結論するのが至當じやないだらうか。

以上の資質は全國刑務所に於ける囚徒に對し 五ヶ年間に亘る犯罪原因調査の統計に聽くに 第一が怠惰 第二が酒色 第三を我慾に歸して居る 恰も我輩の見るところと符節を合することゝなつた 予は尙ほ此以外に短氣で物事に飽きつばい性格と猜疑心の強い點(これ等が變質だ)を強調したい。

以上舉示したる性格の持主が多く犯罪に墮すると見るのは癖目だらうか、此性格が社會環境と云ふ坩堝の中に溶融合したのではないだらうか 環境がこんな性格を造り上げたとは 逆も考へられぬ 若し此觀點に異論ある一般教育學者及び特種教育者は請ふ來つて犯罪少年の全貌を看破して貰ひたい、或は思ひ半ばに過ぐるものがあるだらうと思ふ。

三 彼等少年赤裸々の姿

生來の怠惰性とでも云はんか某少年は仕事いひが嫌になれば逆も我手が上げ得られぬと云ふて泣き出す、其他仕事に嫌きらがくれば怠懶けるものが尠くない、彼等一般に此の傾向の持主だ。

保護處分は自己の犯せる罪の贖ひと云ふ觀念が去らぬのがある、故に收容稍永きに亘れば最早程よいとて逃走する、自己修養とか鍛鍊など云ふ觀念は藥にたくもない

ものが多数だ、自動車の運転手が客の置き忘れた金品を忘主に届けて謝禮を貰つた噺を聴いて多くの少年は云ふ、彼の運転手は馬鹿だ、何故全部着服せぬかと、一般に云ふと道徳的向上心が缺けてゐて却つて墮落下向的情意が募つてゐる者が多いのが實際だ、假令へば禁煙年齢でありながら互に喫煙を勧める。世には彼等の智能を疑ふ人がないでもない様だが、善惡の二道を識別する力のない程の少年は一人も見出されない、そこに精神薄弱(低能)と病的變質者がある、精神薄弱者は誘惑に陥ること屢々である、或る有識階級の父親が我子の不甲斐なさを慨き愛憎をつかして我子ながら彼れを殺したい位に思ふと眞剣に云ふた、斯の如き親は有識階級に尠くない、が之に反して下層階級の親は却つて少年法を恨み、一日も早く保護解除を急ぐものがある。それは罪をさ程に思はず子供を喰いものにせん爲めである、中には低能で自活の能力缺乏の少年も實際にあつて氣の毒に堪へぬ。

親が不良の我子を殺したいと云ふが子が又親を逆怨みする不良がそれより多い傾向である、親子共に過てりだ親は子の病的を知らずに口八ヶ間敷く小ごとを云ふ、

子はまた己れの怠惰、我儘を推し通さうとする、そこに意志の疎隔がある、親自身が生みつけた因縁を反省することが必要だ。

「父は父たらざるも子は子なり」と云ふ觀念なきこそ遺憾なれ。最近の新聞に繼母を刺殺した少年があつた、其原因は少年が映画館に行く小遣ひを要求したのを繼母が拒んだ其の怨みだと云ふ、この少年は性格上に缺陷がある様に思はれるから早く性能検査を受けて、適當な處遇を講じて遣らねばならなかつたと思ふ。世の繼母にも學校時代に智育よりは徳性を涵養せしむることを強調したい。要するに後に述べんとする學校の性格調査と徳性涵養が足らぬ結果だ。某少年は自分は親を勘當して家出して來ましたと放言した。又田舎の少年で收容後成績良好と認め、親元に歸へしたが家では辛抱出來ずに再び我會に復歸した、其後、最早大丈夫と再び親元に歸したが、又ぞろ歸投したことを再三に及べり。

精神異常少年は兎角身體の不潔と不健康を意とせぬ向きが多く、又飽食する、中には洗面せぬ少年も往々あつた、入浴するも垢を洗ひ落すことを意に介せず、疥癬に惱む

も治療を受けやうとしない。尤もこれは警察の留置所より感染し來る結果ではあるが、不潔性も大に快復に關係がある。冷水摩擦を目下勵行して居るが、これは治療教育の一法として勵行すれば出來得る自信を持つた。

少年の惡癖矯正の一法として自他の所有權尊重教養中、最も困まらせらるゝものは履物である下駄、跣足袋等何所でも脱きつばなしで、誰れ彼れの區別は全くなく、鼻緒は切れたら切れつばなし、靴は踵を踏み潰す、足袋の小ハゼをかけることさへ五月蠅がつてかけぬものが多い、物事の始末には一切頓着せぬ、他人の着てゐる目立つ縞柄のシャツだと直ぐに借着する、そんなことは毫も厭ふことなし、逃走するときは必ず他人の物を着服して出るは常套事に屬す。又物品を粗末にすることは言語道斷だ、是れに反して物を他人に盜まれたときは非常に立腹する。(どこまでも自己中心だ) 彼等の私的制裁は慘忍を極む、之れを延す(呼吸の止まる意)と稱し無情性格を發揮する。

彼等少年の偽らざる告白を聽くに、逃走其他犯罪の一念發起するや忽ち意志尖銳凝化して之れが向後どうなるか、こうなるかと云ふ如き觀念等全く消えて所謂棄て鉢と

なり。其のこの以外は一切顧る餘裕なしと。別の少年は犯罪實行中の経過は一切覺へずと云ふ又某性慾倒錯少年は一切夢中で異性に飛び掛り相手の泣聲で初めて氣づく、と云へり。又某半狂的少年歸郷の際再び前回の如きことをしない様注意せしに「私も再びしないと堅く決心はして居るが、今年初夏の頃が心配である」と發作を意味せり。又多少學識ある某少年歸郷の際に最早再び犯罪せぬだらうと聽きしに其答に「決してせぬと心に誓ひ居るも若しも再び金錢に窮したとき、人の氣付かざる金が何處かにあつたとすれば或は又ぞろ惡心の起るなきかを疑ふ」と云へり。以上偽らざる告白に依り推敲するに意志薄弱者、病的な人格者は、誘惑若しくは或る衝動又は氣候の變遷等に際して再犯に陥るなきを保せず、精神病醫學者は之れを精神發作と稱して居る。此の發作なきとき即ち平靜時には毫も尋常者と異なることなし、此の精神發作があることを知る人が幾人あるか、假令それを知る人があつても之れを口にする人は少ない。又之れを口にしながら發作病理を究めず、動もすれば彼等少年を常人扱する人は多いじやないか、累犯防止を使命とする人々は以て如何となす、予は彼等少年の性格に顧みて特

種教育法の新發見に腐心するものである。

八

四 彼等少年の環境

斯く云ふ予と雖も決して環境を輕視するものではない、然れども一概に社會環境と云ふが、環境は人々個々に微妙に働きかくるもので誰れにも千遍一律に響くか判定し難い。家庭環境の中にも貧富程度の環境あり、兩親に關する環境あり、兄弟姉妹舊の環境あり友人環境、居住地環境、家業環境等殆んど枚舉に暇ない位だが、調査者は親戚故舊等御丁寧にもそれ々々列舉して實際不良なる環境が是れ々々だからと云ふが其環境の力が本人を左右するその反響の大小強弱等は本人の素質即ち抵抗力の如何に關するものである、その抵抗力に病的症狀が伏在してゐはせぬか、其病根に關しては精神科醫の診定に俟つのが雅量じやないか、元來病的な人格者を一名中間者とも呼ぶ、中間者とは尋常者と精神病者との中間人物と云ふ意味だそうな、精神病の智識のない素人が其中間者即ち病的者を捉へて環境呼はりをするは一考して貰ひたい、氣狂いに果して氣狂ひ心理と云ふやうな真正な心理があるかどうかは知らぬが、氣狂いに關

することは専門醫に一日の長あることは否めまい。

五 性能テスト

此頃性能検査と云ふことが大分わかつて來たやうだ、精神異常者の鑑別に精神薄弱と病的人格がある、御參考迄に茲に聴くがまゝに病的人格の分類を擧げんに、専門家に依ては多少の相違はあるが、其一斑を次に例示せば、1意志薄弱者、2興奮者、3發揚性人格、4憂鬱性人格、5感情交代性人格、6無情性人格、7氣分易變性人格、8ヒステリー性人格、9病的嘘言者、10狂信家、11過敏性人格、12奇矯者、13衝動性人格、14性慾倒錯者、15強迫者、16神經質者等である。

餘事ながら某所に於ける學童の性格調査の方式を聴くに、氣質(四の型) 向性型(内向外向型) 職業個人型(智的型、經倫型、技術型、力量型) に分類せられある、智育に關してはそれ丈けでも可ならんが、道德性精神鑑別に關しては人格調査が缺如してゐはせぬかと思ふ、折角の分類が出来て教育せられても德行上に缺陷ある性格者を見遁かしたなら、それこそ百日の説法何にやらじやないだらうか、我國の教育が智

九

育に偏してゐると云ふは此點にもありはせぬか。

十

それは借置き後天的に虐待、冷遇を受けて精神が「ヒネクレ」自暴自棄となりて不良化する、又肺炎後は精神一變全く別人の如くなることは實際である、然れども現在虐待児童を收容してゐる 杉並學園に就て聞くに 虐待児童中少年教護院のお世話にならねばならぬと認むるものは、未だ見出されぬと云ふ これこそ不良化に就き吾人は大に研究を要すべき課題であると思ふ、環境がさういふ如く精神を易變せしめるには多少素質關係が影響するじやないだらうか、虐待冷酷は憤慨心を唆り爲めに放火した少年があつたが、其の少年は元來不良性があつたから 冷遇されたとも云ふ、そこ等に素質論と環境論の分岐點があるじやないか、元來素質の良い者は不良の環境に置くも不良に感ぜぬ 精神科醫は之れを免疫性だと呼んで居るとか聞く 又それと反對に不良性を良環境に置くも いつしか不良性を發揮すると云ふ。

尙、茲に餘事ながら附記したいのは 五、一五事件や二、二六事件に携れる犯罪者中にも多少病的な人格者は無かつたらうか、自己の職責を打忘れて國憲を紊る其の動

機は立派でも 其の結果は釋すべきでない即ち犯罪者である。中には純然たる精神病者もあつたやうに世間では噂して居る、又一般の思想犯罪者も左右兩翼とも 悲憤慷慨の士で 多少尋常者と異りたる性格の持主ではないだらうか、是等も犯罪研究の見地から科學的に 國家が調査研究するの要があると思ふが如何？。

六 教化研究部發表の病的な人格者

前述の所感は予一個の關心談である、然るに予は是等少年を科學的に調査研究せしめたるに、其精神病學的分類は次の如くである。即ち病的な人格（所謂變質者、限界者、中間者とも云ふ）が大部分を占めて居り、此全体の四分の三に當るところの病的な人格を除いた残りは精神薄弱者（一四％）と、稍異常なるもの（四％） 及尋常者（八％）である。

病的な人格者中最も多いのは意志薄弱者であり、之れに次ぐものは興奮型であつた。家庭窃盜最初の年齢は六才より十五才までの間に既に盜癖が芽生えて居る。（早期に發見して早く性能検査と處遇の方法を講ずることを勸告したい）

十一

七 家系の病的負因とテストの遣り方

家系の病的負因の調査に於ても五十名中、病的負因の全く發見し得なかつたものは二名、他の二名に於ては單に親の結核(胚種毀損の意味に於て問題)と母の妊娠中の病氣を見出すに過ぎなかつた。

尙、彼等の大部分は種々著しい不良な環境的影響を受けて居ることを認められた。

以上不良少年の科學的調査に依れば、大部分不良環境の影響を受けて居るは儘だが、病的な人格(變質者)が大部分を占めて其他は精神薄弱者(低能)にして尋常者は一小部分に過ぎぬと云ふ、此結果は從來社會環境説を固執せる論者に見て貰ひたい、精神的調査は斯道の學者と雖もそう容易に僅々一二時間の智能テストや、又虚偽を事とする彼等少年と一遍の問答位では、彼等の本質を看破することは出来ない。のみならず病的者は或る誘惑や刺戟を受け又氣候の變化等に應じて不意に發作變心することが通常である。此の精神發作すると云ふことは、吾人の如く彼等と親炙して意外にも度々の事犯を見せ附けられた人でなければ味ふことが出来にくい。發作變心せざる平靜時

には毫も尋常者と別に異ならず、名醫も動もすれば誤診するは斯點である、故に診定は一二回に止まらず成るべく度々彼等と親炙を重ねばならぬ、内科のお醫者が診断に能く、患者の容態や自覺を聴くがそれにも彌増して犯罪者の心的病根を掴む爲めには彼等の幼時よりの生活状態や家系から、犯罪事實あるものに對しては其の犯罪前後の心理並に其手口等を判断の材料とせねばならぬ、特に弊會研究部が他の追隨を許さざる誇りを保つのは、家系の實地臨檢調査並に豫後の病歴や快復の實査等にして、徒に机上の論争や輸入的翻譯的研究とは全く其撰を異にする點を深く諒せられんことを望む。

八 斯道研究家に望む

前述科學的調査や、予の体験に若し誤謬の點を發見せられたる方は、幸に指摘、是正を惜むなくんば、獨り科學者や予一個人の幸のみならず實に國家の爲め犯罪及累犯者の減少に貢獻すること實に至大である、殊に司法保護就中累犯に關心を有すべき、保護團體の從業家は、從來の如くそんな議論は何所を風が吹くかと云ふ如き態度や公

司の思惑等に氣兼ねして狐疑逡巡することなく、何卒來つて予の老軀を鞭撻して有終の果を收めしむるか將た又寧ろ老骨を當該保護事業界から葬り去らしむるか、二者其一を撰ばれんことを熱淚以て惻願す。

再拜

此の『犯罪と徳性』に心から御同情の士に限り左の哀愴文を御讀み下さい

哀 愴

此の小冊子をものしたるは、全く我が幼少年教化研究部研究の恩惠の力である、此の恩惠は望月軍四郎、藤山愛一郎兩氏の賜ものである、尙ほ此以上兩氏を煩すに忍びず世は國家精神總動員の折柄政府亦容易に手を下すの義奮なきものゝ如し、此の際斯の國策貢獻に目醒め、亂に居て治を忘れぬてふ、果して一人の國士の篤志者なきや、此事業繼續の爲には戰費に比し、實に九牛の一毛即ち十萬圓許(永久生命糧)に過ぎず、冀くは予を見殺しにせざらんことを。念の爲めに研究部趣意書を左に附記す。

幼少年教化研究部趣意書

近時文化の進歩に伴ひ、社會生活は愈々複雑化し、生存競争は日に激烈となり、社會生活に順應し得ざるものゝ益々増加する趨勢にあり。就中、年少者の不良化の激増することは深く識者の憂ふるところなり。本會は保護を要する少年の教化に従事せるところと茲に滿十年、人員約一千名に達す、その間、特に不良者の發生に關し深憂を感ぜり、吾人は之を單に生活難の一現象又は不可避の文化的所産として看過するを得ず世相の推移を現状のままに放置せんか我民族の將來に一大暗影を投ぜずんばあらず。

抑も不良化の原因は那邊に存するや、現在之を論ずるもの或は遺傳素質を強調するの餘り環境の影響を等閑に附し、或は環境の影響に眩惑されて遺傳素質の重要性を無視せんとする嫌あり。

翻つて考ふるに此の問題は到底斯かる一面的なる所説のよく解決し得るところにあらず。その關係するところ甚だ廣く、その起因するところ遙に遠きに及ぶものにして、尙將來生物學的心理學的社會學的等あらゆる方面より廣汎且つ徹底的なる研究を要す

るもの尠からず。

本會茲に感ずるところあり、廣く世の専門學者及實際家を招聘し、斯問題を根本的に調査研究しその結果を世に發表し、兒童教化の資に供し、且つ不良者發生防止の材料たらしめ、以て國家將來の不安を芟除せんことを期す、此新企圖こそ現下の思想問題と相俟つて一日も忽かせにするを得ざる課題なりと信ず。

顧るに醫學者、心理學者、教育學者等文教の府にあるものは勿論、苟も國運の隆昌を念とする爲政者等是が調査研究を等閑に附し之を利用せざりしは寧ろ怪訝に堪へざるところなり。

而して本研究は民間一部篤志者の私すべきものにあらず。實に國家的見地より學國一致大に努力すべき一大問題なり。茲に本會自らはからず、卒先して本研究部を設立せり。之が爲には幾多の知識と研究資料は勿論、完全なる施設と充分なる調査費を必要とす。冀くは吾人とその感を同じくする諸士よ、奮ひ立つて大いに斯問題解決に要する有形無形の援助を吝むなくんば幸甚なり。

昭和十三年八月十日 印刷

昭和十三年八月十五日 發行

(非賣品)

東京市杉並區和田本町八七二

編輯發行人 橋本勝太郎

同

印刷所 日本少年指導會印刷部

發行所

財團
法人

日本少年指導會

東京市杉並區和田本町八七二

電話 中野(38)三七二一

終

